

小松天満宮の創建と能順のう じゅん

徳川幕府統治体制確立のもと、加賀

藩三代前田利常は明暦三年（一六五七）

日頃祖先神として崇敬する菅原道真

公を北野天満宮より勧請し小松天満宮

を創建した。初代別当に北野天満宮社

僧能順を招き、大工は加賀藩大工の開

祖と言われる山上善右衛門であった。

小松天満宮はその縁起にも記されて

いる如く特に清浄の地を選び、小松城

の鬼門の地に建てられている。神前に

忌火いみびを供え、その火でお粥炊きをする

特殊神事「御火焚神事」に因み、冬至

の日の出が神門から本殿に差し込む社

殿配置をとっている。

神事には十一月二十五日の御火焚神

事の他、三月二十五日、九月四日の例

祭、八月四日に筆供養、六月五日は前

田利常を祀る小松神社において小松商

工祭りが執り行われている。

一方、社殿と神門が国の重

要文化財の指定を受け、十五

重石塔が小松市指定文化財に、

工芸品では沈金硯箱ちんきんすずりばこ一合と

琴棋書画沈金文台ちんきんぶんたい一基が国の

重要文化財指定を、三彩金欄さんさいきんらん

手籠文てりゅうもん双耳塀すうじが石川県指定

文化財に、文書典籍では連歌

関係文書が石川県指定文化財

に登録されている。

能順は若くして連歌上手と

され北野天満宮の学問所の歌

道宗匠そうしゅうを務めると共に靈元れいげん

上皇に連歌を進講するなど生

涯にわたり京都と小松を往来

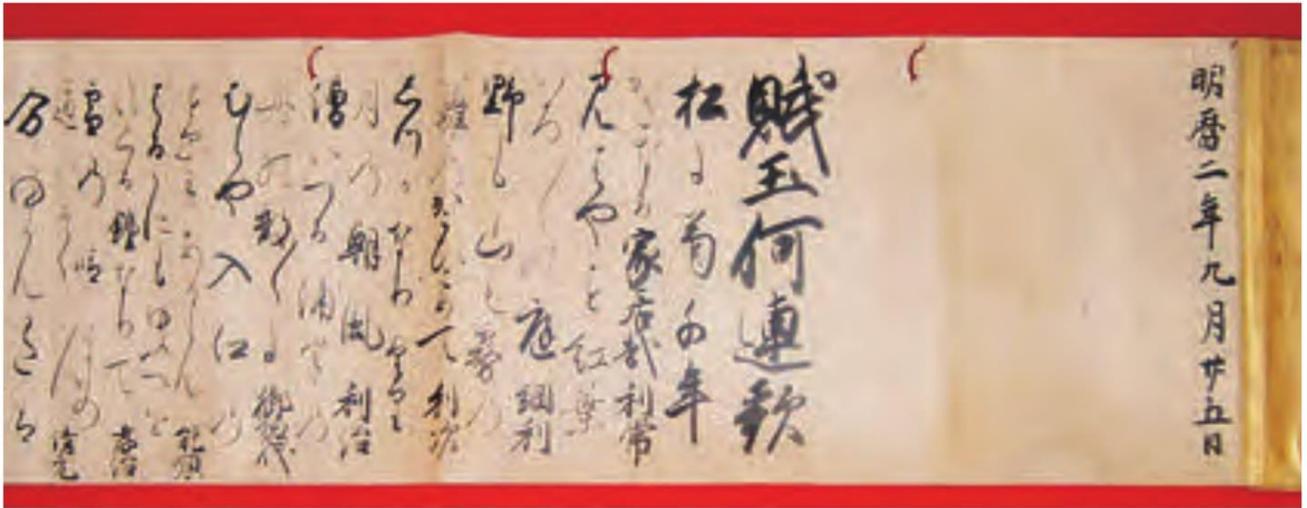
することで京風文化を伝えるとともに、

今江の三湖台さんこたをはじめ各所で連歌会を



国指定重要文化財「琴棋書画沈金文台」（小松市天神町 小松天満宮所蔵）

開催して武士、町民を問わず多くの文
芸人の育成に貢献した。また元禄二年



石川県指定文化財「明暦2年利常等玉何連歌百韻」(小松市天神町 小松天満宮所蔵)



国指定重要文化財「小松天満宮本殿・石の間・幣殿及び拝殿」

(一六八九)、
松尾芭蕉まうお ばしゅうが奥
の細道の旅の
途次小松に立
ち寄り、山中
から再び小松
に引き返した
のは芭蕉が能
順と会うため
で、中世文芸
と近世文芸を
代表する二人
の出合いがあ
ったと推察さ
れている。こ
のように小松
に貢献した能
順は、宝永三
年(一七〇六)
七九歳にて小
松で没した。
(大西 勉)